

新年のご挨拶

北海道森林管理局長 原田 隆行



令和3年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、熊本県を中心にした九州地方や中部地方において、豪雨による大規模な河川の氾濫や山地の崩壊が発生しました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、木材需要や流通へも大きな影響をもたらしました。北海道森林管理局としましては、木材業界等の関係者の方々のご意見を踏まえ、地域の実情に応じた国有林材の供給調整などに取り組んでおり、道内関係者の皆様と力を合わせてコロナ禍の厳しい状況を克服していきたいと考えています。

さて、森林は木材等の供給のみならず、国土の保全、水源のかん養などの多面的機能の発揮によって私達の生活や経済に大きく貢献し

ており、適切に保全・整備・利用することが必要です。

とりわけ、トドマツやカラマツなどの人工林が今や利用期を迎えており、どのように伐採・利用し、また、伐採後はどのような森に再生するかを判断することが重要となっております。

このため、北海道森林管理局としては、利用期の人工林を一律に伐採せずに、伐採の時期を分散させ、一部は長伐期化するとともに、天然の広葉樹が混じる人工林については、より長い視点で天然力を活用しつつ樹木を育成し、かつての北海道にあったような針葉樹と広葉樹が混交した森林として整備してまいります。

これらの取組にあたっては、長伐期の人工林から生産される大径材の需要を開発し価値を高める必要があるため、大径かつ良質の原木を選別して安定的に供給する取組を行い、大径材の

利用推進につなげていきます。

また、伐採後の再造林にあたっては、植栽や下刈りなどのコスト縮減が課題です。このため、大型機械を用いた下刈りの実証試験や、緩効性肥料を活用したコンテナ苗の利用拡大等により造林の低コスト化に取り組んでいます。

一方、新たな取組にはリスクが伴うことから、国有林がまず先頭となって取り組み、その成果を民有林へ還元していくなど、地域の林業・木材産業の発展に貢献してまいります。

このような取組を通じて、「多様な樹種や多様な大きさの樹木を育む森林を整備し、そこから様々な木材を安定的に一定量供給できるようにしていく」という国有林にしかできない国有林ならではの森林づくりに取り組めます。

更に、近年多発している豪雨等の自然災害に対しては、迅速な復旧はもとより必要な治山施設の点検・整備等を計画的に行い、引き続き防災・減災・国土強靱化に積極的に取り組んでまいります。

北海道森林管理局としては、これらの取組については、「見える化」をキーワードに地域の皆様と連携しつつ事業を着実に進めて行きたいと考えています。

本年も一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、北海道の森林・林業・木材産業の発展と、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

